

案件に関連する指摘・対応状況

国名：案件名
パキスタン：空港保安強化計画
(1) 問題・指摘の概要
目標とした完成３年後において大部分の機材が未稼働であり、機材の維持管理を適切に実行するための外部の技術的サポートも十分に得ることができず、運営・維持管理の技術と状況に問題があるとして、2018 年度の事後評価では総合評価「D」となった。
(2) 原因
想定以上の電圧変動や停電などに起因する不具合の発生に加えて、日常のメンテナンスや故障後の対応が十分に取られて来なかった。ラホールでは埃や高温など環境条件が相対的に厳しいことが指摘されており、イスラマバードにおいては、事後評価当時、旧空港から新空港への移設が行われていなかったため新空港での稼働実績がなかった。また、メーカーによる実施機関の技術者を対象としたメンテナンス指導が短期間に各空港を巡回する形で行われ、十分なメンテナンス技術の養成に至らなかったため、供与機材の不具合の初期発生が生じ、修理が困難になった。さらに、瑕疵担保期間満了後に維持管理契約が締結されず、機材の維持管理メンテナンスが適切に行われなかった。
(3) これまでの対応及び現状等
2021 年 1 月から 2024 年 7 月にかけて、無償で整備した機材の修理の可能性を検討し、機材メーカーとの調整を行ってきたが、対象機材全体の保安検査装置メーカーからは、機材の適正使用年数を既に経過していることもあり（2023 年時点で納入から 7 年程度経過）、これらの機材の故障診断、修理、スペアパーツ供給に関するサポートを得ることができなかった。 実施機関との協議の結果、実施機関においても修理を追求するのは止め、新規機材を調達し、整備する方針としている。
(4) 今後の対応・教訓等
今後の教訓としてプロジェクトの初期段階から、メンテナンス契約の具体的内容や金額について、実施機関とメーカーとの協議・合意形成を図り、瑕疵担保期間了と同時にサービスが提供されるようにすること、援助対象国におけるメーカーの納入・保守サービス実績を入札要件として問うこと、瑕疵担保期間中の機材の運用段階で、技術者の運用習熟度を高めるために、メーカーもしくは代理店による OJT トレーニングを無償資金協力のスキームに盛り込むこと、瑕疵検査は請負業者の瑕疵期間満了時に速やかに実施し、検査の結果を踏まえて、施主への監理責任の移管と、請負業者による瑕疵責任の確実な対応を求め、機材の管理と修理の責任の所在を明確にすること、電源品質の確認と対応を確保すること、が提言された。